

第5章 読書環境の整備

子どもたちの読書活動の推進する環境を整備するためには、学びの場である学校図書館と地域の情報センターとしての町立図書館の連携が大切です。

学校図書館は、児童・生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心を呼び起こし、豊かな心を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能を持っています。また、学校内において、読書、学習、情報収集などに関わる「学習・情報センター」としての機能も持っています。

また、町立図書館は、子どもから大人まですべての年代の利用者や地域の実情に応じた資料を整備しています。

この二つの機能を生かし、子どもの読書活動を推進する環境を整備するため、図書資料の整備・充実を図るとともに、図書資料やイベントに関する情報交換などの連携を通して図書館利用の活性化することが重要です。

また、学校図書館を活性化するためには、司書教諭や図書担当教諭、学校司書が、読書活動に関わるボランティアと連携しながら学校図書館のサービスの改善・充実を図ることも効果的です。

具体的な取り組み

- 1 学校図書館の充実
- 2 町立図書館の充実

1 学校図書館の充実

学校図書館は、児童・生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心を呼び起こし、豊かな心を育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能を持っています。また、学校内において、読書、学習、情報収集などに関わる「学習・情報センター」としての機能も持っています。このため、子どもたちの主体的な学習態度を育成する上で、資料を活用した学習活動の場としての学校図書館の役割が、一層重要になってきます。

子どもたちの様々な興味・関心に応えるような図書資料や施設等の物的環境を整備するとともに、学校図書館で課題解決的な学習、探究的な学習など子どもたちの主体的な学習活動が展開できるよう、教師、司書教諭、学校司書等が連携していくことが大切です。

現状

町内各小・中学校では、学校図書館図書標準を全校で達成しています。

今後は、質の高い資料の購入と、定められた基準に沿った資料の廃棄による蔵書の新陳代謝が求められます。

府中町での1校当たりの購入・廃棄冊数（学校調べ 平成28年度：冊）

	購入	廃棄
小学校	1, 965	897
中学校	861	1, 020

目標達成の具体的な取り組み

- ①学校図書館図書標準を維持しながら、計画的に新書購入・廃棄します。
- ②すべての小・中学校で、展示物や配架の工夫を行います。

2 町立図書館の充実

町立図書館は、町民の知る自由を保障する機関であり、町民が必要とする資料を提供することを基本的な任務としています。町立図書館は、本町の地域性を鑑みながら、町民の生涯にわたる学習と府中町の文化発展に寄与することをめざしています。

そのためには、図書等の整備・充実を図り、町立図書館と学校図書館相互の協力を進めるなど、読書活動を推進する環境を整備することが重要です。

目標と現状

現状 町立図書館における子ども一人当たりの蔵書冊数及び貸出冊数

(児童図書・絵本・紙芝居)

蔵書冊数 2,86冊

貸出冊数 14,52冊

府中町の人口(平成29年4月1日現在・住民基本台帳)

0～18 歳 9,696 人

平成28年度町立図書館蔵書・貸出冊数(府中町立図書館調べ)

(冊)

区分	平成28年度末 蔵書数	平成28年度末 貸出数	年間増減状況		
			受入	除籍	増減
図書合計	98,224	206,882	4,547	1,655	2,892
うち児童図書	16,766	66,846	799	226	573
うち絵本・紙芝居	11,113	76,830	728	248	480

児童図書については、子どもの発達段階に応じた資料を幅広く収集しています。

また、調べ学習をはじめ、子どもの興味・関心や欲求等に対応することができること、さらに将来に向かって視野を広げることに役立つ資料の収集に努めています。

ヤングアダルト世代に対しては、同世代が推薦する本を揃えたコーナーも設置しています。

具体的な取り組み

- ①子どもの発達段階に合わせ、調べ学習を含めた子どもの興味・関心や欲求等に対応できる図書の収集に努めます。
- ②ホームページに「青少年向けおススメ図書リスト」を掲載します。
- ③学校図書館と連携し、町内中学生作成のPOP展示などを行い、ヤングアダルト世代自身が推薦する本の情報提供を行います。
- ④団体貸出制度を活用した学校図書館の支援を行います。